

【別紙】

「本件申立てに至った経緯」

昭和62年2月、〇〇大学を卒業後、アメリカに留学し、平成2年に帰国致しました。その後、××株式会社に入社し、借金も無く、堅実に暮らしておりました。

① 最初の借り入れについて

平成3年3月、会社の都合でJOBカードと二井住友カードを作られました。初めは使い方もよくわからずにカードを持っているだけでしたが、買い物をする際に便利だということに気付き、使用するようになりました。

② 債務が増えていった原因

平成5年頃、宝家歌劇を友人から誘われ観劇してから舞台にはまってしまい、宝家公演（大阪）にも足を運ぶようになり、交通費等の不足分を借り入れるようになりました。また、銀行に就職した為、会社絡みの付き合いでカードを作ることが多く、平成6年5月にはオーエムジーカード、平成3年にはセソンカードを次々と作成致しました。

平成8年11月、丸井で買い物をする際に店員から勧められ、丸井カードを作成致しました。

平成11年12月、銀行を退社し、銀行の寮生活から一人暮らしをするようになりました。退職後、なかなか良い転職先が見つからず、失業保険と銀行員時代の貯蓄で生活しておりました。徐々に貯蓄も底を突き、不足した生活費を借り入れるようになりましたが、平成12年10月、現在勤務する株式会社〇〇に転職することができました。

平成15年、父が病に倒れ、入院を余儀なくされました。その為、入院中の父の世話などで、岩手県にある実家に出向くことが多くなり、帰省費用等の出費が嵩み、その不足分を借り入れるようになりました。

平成16年11月にはアロム、翌年にはアイクル・ルイクと返済を滞らせないために、次々と借り入れをしましたが、債務の額が増えるだけで、結局、何の解決にもなりませんでした。この頃の債務は300万円程に膨れ上がってしまいました。

平成18年3月、昼の仕事の給料だけでは家賃の支払いや返済で苦しくなり、△△株式会社でアルバイトを始めました。しかし、支払っても支払っても借金の額は減ることはありませんでした。

平成19年4月、当時住んでいた住居の家賃が9万円と高額だった為、少しでも家賃の低い所に引越しをしようと考え、敷金礼金が不要な物件を探し、現在の住居に引越しを致しました。

平成23年6月、借金の総額が500万円を超えてしまい、借りては返すの繰り返しで、このまま私ひとりだけの力で解決することは不可能だと思い、破産を申し立てる決意を致しました。

全ては私の精神的な弱さと自己管理の甘さからこの様な結果を招いてしまったと深く反省しております。

債権者の皆様には多大なご迷惑をお掛けして、本当に申し訳ないと思っておりますが、今後はもう二度と借金をしないように計画性のある生活をしていく覚悟でおりますので、人生の再生の機会を与えて頂きます様、何卒、よろしくお願い申し上げます。